

次の文章は、古い著名な技法書からのものである。その「10章 印刷」の中でインキについて述べている箇所からの抜粋である。拙訳であるが以下のようになる。

『THE ART OF ETCHING』 — E. S. LUMSDEN —/Dover

## 10章 印刷

### インキ

先ず必要なのは良いインキである。とても骨の折れることだが、次に述べる理由により、自分自身のインキを作ることはそれなりの価値がある。

1. 固練りや油質のものなど、思うような粘りのものを作ることができる。
2. 強さを意味する、中位または薄いオイルなど、思うような強さのものを作ることができる。
3. 黒色に多少のバートアンバーを混ぜることにより、色調を変えることができる。

ブラックとカラーインキは、ある程度の濃度において、折りたたみチューブで供給される。だが、それでもなお、各版の特別な要求に応じて、自分で混ぜなければならないだろう。それは濃度を濃くすることはできないが、薄めることは容易である。疑いなく、もし自分の求めるものが正しく得られることが当てにできるなら、これはインキを保存するには申し分ない手段だろう。つまり言い換えると、もしブラックインキを試してみても、アンバーとオイルが前もって練られてメーカーから与えられていると、どうすることもできない。

これにより、私は個々の材料を購入して、必要とする新鮮なインキを作ることの方を好む。それは不確実なことではない。というのは、必要とすときチューブから出そうとして、度々チューブの中がすっかり乾いているとか、あるいはインキが機械で練られ過ぎているとか、そのどちらの心配もいらぬからである。換言すれば、あまり細かすぎると程よく線に残らない、とどまらないと言うことだ。

この「10章 印刷」は原文では3頁程のもので、その他に顔料の混合、インキの練り方、それにインキを練る際の「オイル」について述べている。尚、この技法書は、ペーパーバックで入手可能である。それから、この箇所の訳を歴史的な「エッチング」誌（1935.5, No.31）に見ることができる。

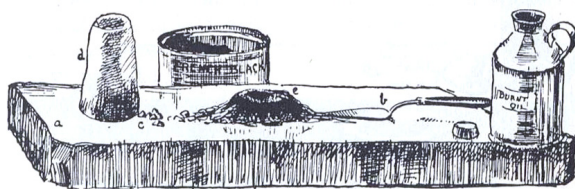


fig.33.—Powder colour ready for mixing.

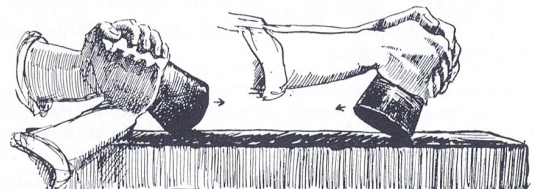


fig.34.—in starting to grind keep muller on edge.

挿図「THE ART OF ETCHING」より

その他の文献からインキについて書かれたものを幾つか拾い出してみる。興味を持たれた方は実際に手にされるとよい。